

2025 年度  
シラバス  
(講義計画)

学校法人 立志舎  
大阪動物専門学校  
【動物管理学科】

別表Ⅰ  
昼間部 動物管理専門課程（文化・教養） 動物管理学科 2年制

頁数	科目区分	必修・ 選択の別	授業科目	授業 形態	第一学年		第二学年		授業時数 合計	単位数 合計	
					授業時数	単位数	授業時数	単位数			
1	一般科目	必修	ビジネスマナー	講義	60	2			60	2	
2			就職ゼミナール	演習			60	2	60	2	
3		選択必修	総合講座Ⅰ	講義	30	1			30	1	
4			総合講座Ⅱ	講義	30	1			30	1	
5			コンピュータ演習Ⅰ	演習	60	2			60	2	
6			コンピュータ演習Ⅱ	演習			60	2	60	2	
7	専門科目	必修	卒業研究	演習			150	5	150	5	
8		選択必修A	グルーミング実習Ⅰ	実習	90	3			90	3	
9			グルーミング実習Ⅱ	実習	90	3			90	3	
10			グルーミング実習Ⅲ	実習			90	3	90	3	
11			グルーミング実習Ⅳ	実習			30	1	30	1	
12			グルーミング論Ⅰ	演習	30	1			30	1	
13			グルーミング論Ⅱ	演習	30	1			30	1	
14			グルーミング論Ⅲ	演習			30	1	30	1	
15			犬の行動心理学Ⅰ	演習	30	1			30	1	
16			犬の行動心理学Ⅱ	演習	30	1			30	1	
17			犬の行動心理学Ⅲ	演習			30	1	30	1	
18			犬の行動心理学Ⅳ	演習			30	1	30	1	
19			インターンシップ	実習	45	1			45	1	
20			選択必修	グルーミング研究Ⅰ	実習	90	3			90	3
21				グルーミング研究Ⅱ	実習	90	3			90	3
22				グルーミング研究Ⅲ	実習			90	3	90	3
23				グルーミング研究Ⅳ	実習			30	1	30	1
24				基礎獣医学Ⅰ	講義	30	1			30	1
25				基礎獣医学Ⅱ	講義	30	1			30	1
26				基礎獣医学Ⅲ	講義			30	1	30	1
27		基礎獣医学Ⅳ		講義			30	1	30	1	
28		動物学		講義	30	1			30	1	
29		ペットシッティング実習Ⅰ		実習	45	1			45	1	
30		ペットシッティング実習Ⅱ		実習	45	1			45	1	
31		ペットシッティング実習Ⅲ		実習			45	1	45	1	
32		ペットシッティング実習Ⅳ		実習			45	1	45	1	
33		動物関係法令		演習	60	2			60	2	
34		家庭動物管理学		講義	60	2			60	2	
35		接客マナー		講義			60	2	60	2	
36		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ		実習	90	3			90	3	
37		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ		実習	90	3			90	3	
38		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ		実習			90	3	90	3	
39		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ		実習			30	1	30	1	
40		ペットビジネス演習Ⅰ		演習	60	2			60	2	
41		ペットビジネス演習Ⅱ		演習	60	2			60	2	
42		ペットビジネス演習Ⅲ		演習			60	2	60	2	
43		ペットビジネス演習Ⅳ		演習			15	1	15	1	
44		ホリスティックケアⅠ		演習	30	1			30	1	
45		ホリスティックケアⅡ		演習	30	1			30	1	
46		ホリスティックケアⅢ		演習			30	1	30	1	
47		ホリスティックケアⅣ		演習			15	1	15	1	
必修科目合計						60		210		270	
選択必修科目合計						1305		840		2145	
卒業に必要な総授業時数						920		800		1720	

1. 講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。
2. 選択必修Aについては、この中から3科目以上履修すること。
3. 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	必修・ 選択の別	履修科目	本校において履修したと みなす授業時数(単位数)
一般科目	大阪法律公務員専門学校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必修	社会科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	社会科学演習	60時間(3単位)
		選択必修	人文科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	人文科学演習	40時間(2単位)
		選択必修	自然科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	自然科学演習	40時間(2単位)
		選択必修	時事研究	40時間(2単位)
		選択必修	論作文	40時間(2単位)
専門科目	大阪法律公務員専門学校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必修	判断推理	40時間(2単位)
		選択必修	判断推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	数的推理	60時間(3単位)
		選択必修	数的推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	資料分析	40時間(2単位)
		選択必修	文章研究	40時間(2単位)
		選択必修	適性演習	40時間(2単位)
		選択必修	トレーニング演習	40時間(2単位)
		必修	就職セミナーⅠ	20時間(1単位)
選択必修	官公庁研究	20時間(1単位)		

1. 講義・演習は20時数で1単位とする。

科目名：ビジネスマナー

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：一般科目 分類：必修 授業方法：講義

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。

〔講義・演習項目〕

1. 職場の人間関係 (5)
2. 就業中のマナー (5)
3. 挨拶とお辞儀 (5)
4. 服装・身だしなみ (5)
5. 話し方の基本 (6)
6. 言葉遣い (5)
7. 上司・来客との話し方・聞き方 (6)
8. 電話対応 (4)
9. 来客対応 (4)
10. 名刺交換と紹介 (5)
11. 面談 (5)
12. 冠婚葬祭のマナー (5)

〔テキスト〕

ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：就職ゼミナール

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  
種類：一般科目 分類：必修 授業方法：演習  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。講座では、面接選考の仕組みを理解し、グループディスカッション、集団面接、個別面接、最終面接の面接ポイントを理解する。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員（各業界を代表する企業の人事担当者）の講話により構成される。

〔講義・演習項目〕

1. 職業についての考え方（5）
2. 就職を取り巻く社会状況の分析（4）
3. 就職活動の予備知識（4）
4. 企業研究の仕方（4）
5. 自己分析の仕方（6）
6. 礼儀・マナーの知識（4）
7. 敬語表現（4）
8. ビデオ等による事例研究（5）
9. 履歴書作成（6）
10. 面接練習（8）
11. 学内就職セミナー、学内就職説明会の実施（10）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：総合講座 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：一般科目 分類：選択必修 授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける。

〔講義・演習項目〕

1. 四則演算 (2)
2. 割合 (3)
3. 分割払い (2)
4. 割引き (2)
5. 仕事算 (2)
6. 速さ (3)
7. 集合 (2)
8. 図点分布 (2)
9. 順列・組合せ (2)
10. 確率 (2)
11. 言葉を比べる (5)
12. 長文読解 (3)

〔テキスト〕

SPI 基礎 (ベシック) テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：総合講座Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：一般科目 分類：選択必修 授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにする。

〔講義・演習項目〕

1. 濃度 (3)
2. 売買損益 (3)
3. 鶴亀算 (3)
4. 資料解釈 (3)
5. 推理 (勝敗・位置) (2)
6. 推理 (順序・論理) (2)
7. 物の流れと比率 (2)
8. 関数式のような式 (2)
9. 言葉を比べる (5)
10. 長文読解 (5)

〔テキスト〕

SPI 基礎 (ベシック) テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

<p>科目名：コンピュータ演習Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2  種類：一般科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  PC業務を経験した者</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Wordを中心として、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムの起動と終了（6）</li> <li>2. 入力インジケータ及びクイックアクセスツールバー（6）</li> <li>3. 文字の入力・文章の入力・入力の訂正・ファイルの保存と読み込み（8）</li> <li>4. 文章の作成（7）</li> <li>5. 文字の拡大と縮小（7）</li> <li>6. 文字の修飾（6）</li> <li>7. 表を活用した文章の作成（6）</li> <li>8. 表の編集（8）</li> <li>9. 画像や図形を活用した文章の作成（6）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>30時間でマスター Office2019 テキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>



<p>科目名：コンピュータ演習Ⅱ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  種類：一般科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  PC 業務を経験した者</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excel を中心として PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムの起動と終了 (4)</li> <li>2. 表計算ソフトとは (4)</li> <li>3. データ入力や基本的なワークシート編集 (4)</li> <li>4. 関数を使った計算式 (6)</li> <li>5. 小数点とセルの参照 (6)</li> <li>6. 罫線 (4)</li> <li>7. 行の挿入 (4)</li> <li>8. グラフ (4)</li> <li>9. 条件判定と順位づけ (5)</li> <li>10. 検索関数の利用 (5)</li> <li>11. Excel の便利な機能 (5)</li> <li>12. Web ページを活用した表の作成 (4)</li> <li>13. Word と Excel の活用 (5)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>30 時間でマスター Office2019 テキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：卒業研究</p> <p>開講年次：2年 授業時数：150 単位数：5  種類：専門科目 分類：必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員およびペットショップ・訓練所にて実務経験のある教員</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究概要（25）</li> <li>2. テーマの研究（30）</li> <li>3. 情報収集（30）</li> <li>4. 下書き作成（30）</li> <li>5. 清書作成（25）</li> <li>6. 製本（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>学生が収集した卒業研究に関する資料、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>目標進捗度に合わせた提出期限内での内容確認及び出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング実習Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミングの目的を理解した上で正しい道具の扱い方を実践することで、用具・用品の適切な使用方法や手入れの方法、生体の健康チェックやグルーミングの基礎となるベーシックを中心に行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング基礎技術を修得することを目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グルーミング用具の使用法とお手入れ（6）</li> <li>2. グルーミング前の生体確認（体温測定や健康状態の確認）（6）</li> <li>3. 生体の保定（10）</li> <li>4. 犬のベーシック技術（爪切り、爪やすり）（8）</li> <li>5. 犬のベーシック技術（耳掃除）（8）</li> <li>6. 犬のベーシック技術（ブラッシング、コーミング）（10）</li> <li>7. 犬のベーシック技術（ベイジング）（8）</li> <li>8. 犬用シャンプーの使用法（6）</li> <li>9. 犬用リンスの使用法（6）</li> <li>10. 犬のベーシック技術（ドライイング）（10）</li> <li>11. 犬のベーシック技術（クリッピング）（12）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、期末試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング実習Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミングの基礎知識を実習に生かし、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ベイジングを完了できるような実習を行う。また、犬体モデルを使用し、ケネルカットについてカット方法を身に付ける。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬種に適したシャンプー技術（短毛種）（6）</li> <li>2. 犬種に適したシャンプー技術（長毛種）（6）</li> <li>3. 犬の体格に適したベイジング（大型犬）（6）</li> <li>4. 犬の体格に適したベイジング（小型犬）（6）</li> <li>5. 生体の保定（6）</li> <li>6. 犬のベーシック技術（ベイジング前作業）（6）</li> <li>7. 犬のベーシック技術（ベイジング）（8）</li> <li>8. 犬のベーシック技術（ベイジング後作業）（6）</li> <li>9. 犬のベーシック技術（クリッピング）（8）</li> <li>10. 犬体モデルを使用したケネルカット技術①（頭部①、足先、下腹部）（8）</li> <li>11. 犬体モデルを使用したケネルカット技術②（後躯、後肢）（8）</li> <li>12. 犬体モデルを使用したケネルカット技術③（前躯、前肢）（8）</li> <li>13. 犬体モデルを使用したケネルカット技術④（頭部②、耳、尾）（8）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、期末試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング実習Ⅲ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>プードルのカットとして、ケネル（ラム）カットを主に、一人でベーシックからクリッピング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で行う犬の保定技術（8）</li> <li>2. 一人で行う犬のベーシック技術（8）</li> <li>3. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部①）（9）</li> <li>4. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（足先・下腹部）（9）</li> <li>5. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（後躯・後肢）（9）</li> <li>6. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（前躯・前肢）（9）</li> <li>7. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（頭部②）（10）</li> <li>8. トイプードルのケネル（ラム）クリップ（耳・尾）（9）</li> <li>9. 犬種の特徴によるグルーミング（非カット犬種）（9）</li> <li>10. 犬種の特徴によるグルーミング（カット犬種）（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、期末試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング実習Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プードルのカット方法（ケネルカット以外のカット方法）（3）</li> <li>2. アメリカン・コッカー・スパニエルのグルーミング（3）</li> <li>3. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのグルーミング（3）</li> <li>4. シー・ズーのグルーミング（3）</li> <li>5. シェットランド・シープドッグのグルーミング（3）</li> <li>6. ビション・フリーゼのグルーミング（3）</li> <li>7. ポメラニアン of グルーミング（3）</li> <li>8. マルチーズのグルーミング（3）</li> <li>9. ミニチュア・シュナウザーのグルーミング（3）</li> <li>10. ヨークシャー・テリアのグルーミング（3）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、期末試験（実技）、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング論Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミング実習を行う際に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい道具の扱いや生体の扱いを実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グルーミングの目的（3）</li> <li>2. 犬の体の名称（2）</li> <li>3. 犬の骨格の名称（2）</li> <li>4. グルーミング用具について①（ブラシ・コーム類）（3）</li> <li>5. グルーミング用具について②（爪切り・ヤスリ類）（3）</li> <li>6. グルーミング用具について③（ハサミ類）（3）</li> <li>7. グルーミング用具について④（クリッパー）（3）</li> <li>8. グルーミング用具について⑤（各種薬品やシャンプー用品等）（3）</li> <li>9. グルーミング用具の使用法とお手入れ①（5）</li> <li>10. グルーミング関係用語について（3）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング論Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミング時に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の知識を用いて、カットの基本技術を学ぶためトイプードルのケネル（ラム）クリップ技法を学ぶ。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グルーミング用具の使用方法とお手入れ②（2）</li> <li>2. グルーミング前の生体確認について（2）</li> <li>3. 生体の保定法（2）</li> <li>4. 犬のベーシック①（爪切り、耳掃除）（2）</li> <li>5. 犬のベーシック②（ブラッシング）（2）</li> <li>6. 犬のベーシック③（ペイジング）（2）</li> <li>7. 犬のベーシック④（ドライイング）（2）</li> <li>8. 犬種の特徴によるグルーミング（非カット犬種）（2）</li> <li>9. 犬種の特徴によるグルーミング（カット犬種）（2）</li> <li>10. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（頭部①）（2）</li> <li>11. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（足先・下腹部）（2）</li> <li>12. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（後躯・後肢）（2）</li> <li>13. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（前躯・前肢）（2）</li> <li>14. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（頭部②）（2）</li> <li>15. トイプードルのケネル（ラム）クリップについて（耳・尾）（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>



<p>科目名：グルーミング論Ⅲ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミングの目的と必要性を認識し、小型犬や大型犬を問わず多種多様な犬種の特徴を学ぶとともに、トリミング技術の知見を広げる。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プードルのカット方法（ケネル（ラム）クリップ以外のカット方法）（2）</li> <li>2. アメリカン・コッカー・スパニエルのグルーミング（2）</li> <li>3. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのグルーミング（2）</li> <li>4. シー・ズーのグルーミング（2）</li> <li>5. シェットランド・シープドッグのグルーミング（2）</li> <li>6. ビション・フリーゼのグルーミング（2）</li> <li>7. ポメラニアン of グルーミング（2）</li> <li>8. マルチーズのグルーミング（2）</li> <li>9. ミニチュア・シュナウザーのグルーミング（2）</li> <li>10. ヨークシャー・テリアのグルーミング（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：犬の行動心理学 I</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、  ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. しつけとは何か (3)</li> <li>2. 犬のトレーニングの必要性 (3)</li> <li>3. 犬のトレーニングの重要性 (2)</li> <li>4. 犬の起源と変化 (2)</li> <li>5. 犬の役割について (2)</li> <li>6. 犬のコミュニケーションと学習 (2)</li> <li>7. 成長過程での学習の大切さ (2)</li> <li>8. ハンドリングとドッグショーの歴史 (2)</li> <li>9. 犬の体の構造 (2)</li> <li>10. ハンドリング技術① (スタック) (2)</li> <li>11. ハンドリング技術② (アップ&amp;ダウン) (2)</li> <li>12. ハンドリング技術③ (トライアングル) (2)</li> <li>13. ハンドリング技術④ (ラウンド) (2)</li> <li>14. ハンドリング技術⑤ (リードワーク) (2)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学 (基礎と応用)、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：犬の行動心理学Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、  ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性（コミュニケーション）の築き方を学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. しつけに必要な理論（2）</li> <li>2. 犬のボディランゲージ（2）</li> <li>3. 犬のストレス（1）</li> <li>4. 犬のコミュニケーション（1）</li> <li>5. ケージに入って休むことの大切さ（1）</li> <li>6. いかにして犬のリーダーになるか（2）</li> <li>7. 犬の状態を理解する①（犬の触り方）（2）</li> <li>8. 犬の状態を理解する②（犬との親和）（2）</li> <li>9. 指示の仕方や種類（声符、視符）（2）</li> <li>10. 停座訓練（3）</li> <li>11. 伏臥訓練（3）</li> <li>12. 招呼訓練（3）</li> <li>13. 居座、立止訓練（3）</li> <li>14. 脚側行進訓練（3）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

科目名：犬の行動心理学Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、  
ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング（犬の行動を引き出す技術）が行われているかを学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 犬のトレーニング（犬の学習について）（3）
2. 犬のトレーニング（正の強化と効果）（2）
3. 犬のトレーニング（一次性強化子・二次性強化子）（2）
4. 犬のトレーニング（嫌悪刺激について）（2）
5. 犬のトレーニング（基本的な指針）（2）
6. 犬の行動を引き出す（2）
7. 犬という動物を見直す（2）
8. 停座訓練（3）
9. 伏臥訓練（3）
10. 招呼訓練（3）
11. 居座、立止訓練（3）
12. 脚側行進訓練（3）

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。

<p>科目名：犬の行動心理学Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員 訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、 ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>多くの犬種の特性と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれるよう技術を高める。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 咬み付く犬（2）</li> <li>2. 犬との暮らし（2）</li> <li>3. 犬の問題行動対処法（2）</li> <li>4. 人とのコミュニケーション・スキル（2）</li> <li>5. 犬のしつけとトレーニングの基礎（2）</li> <li>6. 仔犬のしつけ（2）</li> <li>7. 犬のしつけ教室を開くために（2）</li> <li>8. ケアと管理（2）</li> <li>9. アジリティ競技とは（2）</li> <li>10. ジャンプ障害（ハードル）（2）</li> <li>11. ジャンプ障害（ロングジャンプ）（2）</li> <li>12. タッチ障害（Aフレーム）（2）</li> <li>13. タッチ障害（ドッグウォーク）（2）</li> <li>14. その他障害（スラローム）（2）</li> <li>15. その他障害（トンネル（チューブ・ソフト））（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：インターンシップ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実習先指導者  多岐にわたるペット業界の指導者のもとで職業体験を行う</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>生涯職業計画の指針として、職業選択、適性を見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人と学生の違い（6）</li> <li>2. 業界の知識（4）</li> <li>3. あいさつ・敬語の使い方（5）</li> <li>4. 就業中のマナー（4）</li> <li>5. 電話対応（4）</li> <li>6. 接客対応（4）</li> <li>7. 金銭管理（4）</li> <li>8. 生体管理・飼育方法（6）</li> <li>9. 消耗品の管理（4）</li> <li>10. 備品の管理（4）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>出席状況、インターンシップ評価書及びインターンシップ日誌等において総合的に判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング研究Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる知識・技術を効率良く発揮する方法を実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グルーミング用具の効果的な使用方法（5）</li> <li>2. 生体確認、健康チェック（5）</li> <li>3. 生体の保定法（9）</li> <li>4. 犬種に適したシャンプー技術（5）</li> <li>5. 犬の体格に適したバイジング（9）</li> <li>6. クリッピング技術（9）</li> <li>7. 犬のベーシック技術（バイジング前）（12）</li> <li>8. 犬のベーシック技術（バイジング）（12）</li> <li>9. 犬のベーシック技術（バイジング後）（12）</li> <li>10. 犬のベーシック技術（クリッピング）（12）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

科目名：グルーミング研究Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング技術と関連知識を基礎から教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

プードルを主とした生体実習により、様々なカットの基礎技術を学び、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目指すとともにグルーミング技術の資格取得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる飼い主様との接し方やカットのオーダー、カルテ作成などを実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を育成し、社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. グルーミングオーダーの取り方、カルテ作成 (6)
2. 飼い主様とのコミュニケーション実践 (6)
3. 薬用シャンプーに関する基礎知識 (6)
4. 犬の保定技術 (6)
5. 犬のベーシック技術 (6)
6. ケネル (ラム) クリップ (クリッピング) (1 2)
7. ケネル (ラム) クリップ (シザーリング) (1 2)
8. テディベアカット (1 2)
9. ボレロ・マンハッタン・クリップ (1 2)
10. タウン&カントリー・クリップ (1 2)

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。



<p>科目名：グルーミング研究Ⅲ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>小型犬や大型犬、様々な犬種の特性に合ったグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スピードトリミング (9)</li> <li>2. アメリカン・コッカー・スパニエルのグルーミング (9)</li> <li>3. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのグルーミング (9)</li> <li>4. シー・ズーのグルーミング (9)</li> <li>5. シェットランド・シープドッグのグルーミング (9)</li> <li>6. ビション・フリーゼのグルーミング (9)</li> <li>7. ポメラニアン of グルーミング (9)</li> <li>8. マルチーズのグルーミング (9)</li> <li>9. ミニチュア・シュナウザーのグルーミング (9)</li> <li>10. ヨークシャー・テリアのグルーミング (9)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：グルーミング研究Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  サロン等でトリマー経験のある者が、グルーミング  技術と関連知識を基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>トリマーとして必要となる接客技術やお客様（お預かり犬）の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となりうる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザインカットの研究（3）</li> <li>2. カラーリングの基礎知識（3）</li> <li>3. スピードトリミング（3）</li> <li>4. 犬種の特性に応じたグルーミングの技術と知識（3）</li> <li>5. アメリカン・コッカー・スパニエル（2）</li> <li>6. ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア（2）</li> <li>7. シー・ズー（2）</li> <li>8. シェットランド・シープドッグ（2）</li> <li>9. ビション・フリーゼ（2）</li> <li>10. ポメラニアン（2）</li> <li>11. マルチーズ（2）</li> <li>12. ミニチュア・シュナウザー（2）</li> <li>13. ヨークシャー・テリア（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：基礎獣医学Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  担当教員：  本学教員および企業及び動物病院の診療に従事していた獣医師  獣医師が動物看護コース以外に対し実務的に必要となる基礎  を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>動物の体の組織や器官の仕組みを理解できるようにする。また、動物を取り巻く環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、食餌管理について学習する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物の体の仕組みと働き (2)</li> <li>2. 日常の健康管理 (運動・排泄) (2)</li> <li>3. 日常の健康管理 (手入れ・口腔衛生) (2)</li> <li>4. 日常の健康管理 (狂犬病および混合ワクチン) (2)</li> <li>5. 避妊 (2)</li> <li>6. イヌ糸状虫症の予防 (3)</li> <li>7. 外部寄生虫の予防と駆除 (3)</li> <li>8. 内部寄生虫の予防と駆除 (3)</li> <li>9. 栄養学の基本的知識 (3)</li> <li>10. 食事を与える際の注意 (2)</li> <li>11. 肥満と食事 (3)</li> <li>12. 特別療法食 (3)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>コンパニオン・アニマルの新健康管理学、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：基礎獣医学Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  担当教員：  本学教員および企業及び動物病院の診療に従事していた獣医師  獣医師が動物看護コース以外に対し実務的に必要となる基礎  を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物の状態確認 (2)</li> <li>2. 外傷の応急処置 (4)</li> <li>3. その他の応急処置 (3)</li> <li>4. 中毒 (2)</li> <li>5. 人工呼吸と心臓マッサージ (4)</li> <li>6. 感染症 (2)</li> <li>7. 滅菌法と消毒法 (4)</li> <li>8. 消毒薬 (2)</li> <li>9. 院内感染とペットショップ内感染 (3)</li> <li>10. 感染症とその予防 (4)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級 第2巻、コンパニオン・アニマルの新健康管理学、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：基礎獣医学Ⅲ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  担当教員：  本学教員および企業及び動物病院の診療に従事していた獣医師  獣医師が動物看護コース以外に対し実務的に必要となる基礎  を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、遺伝について学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ズーノーシス概論 (3)</li> <li>2. 咬症、裂傷により感染するズーノーシス (2)</li> <li>3. 日常生活に関係の深いズーノーシス (2)</li> <li>4. その他の代表的なズーノーシス (2)</li> <li>5. ズーノーシスの一般的な予防法 (2)</li> <li>6. 繁殖の基本的知識 (3)</li> <li>7. イヌとネコの繁殖生理 (4)</li> <li>8. その他の動物の繁殖生理 (2)</li> <li>9. 分娩・新生児 (3)</li> <li>10. 遺伝学 (3)</li> <li>11. 遺伝性疾患 (4)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>コンパニオン・アニマルの新健康管理学、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：基礎獣医学Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  担当教員：  本学教員および企業及び動物病院の診療に従事していた獣医師  獣医師が動物看護コース以外に対し実務的に必要となる基礎  を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>幼齢動物・老齢動物の飼育管理を理解するとともに、哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼齢動物の飼育管理（2）</li> <li>2. 老齢動物の飼育管理（2）</li> <li>3. エキゾチックアニマルの生理と生態（3）</li> <li>4. エキゾチックアニマルの主な病気と飼育方法（3）</li> <li>5. 動物行動学（3）</li> <li>6. 産業動物（2）</li> <li>7. 実験動物（2）</li> <li>8. 展示動物（2）</li> <li>9. 野生動物（2）</li> <li>10. 動物福祉・人間関係学（3）</li> <li>11. 動物看護業務に関わる法律（3）</li> <li>12. 働き方に関わる法律（3）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>コンパニオン・アニマルの新健康管理学、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。</p>

科目名：動物学

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  
種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて学習する。

〔講義・演習項目〕

1. コンパニオン・ドッグの犬種名及び特徴と性格（3）
2. テリアの犬種名及び特徴と性格（3）
3. スピッツ・タイプの犬種名及び特徴と性格（3）
4. ガン・ドッグの犬種名及び特徴と性格（3）
5. ハウンドの犬種名及び特徴と性格（3）
6. 牧畜犬・護衛犬の犬種及び特徴と性格（3）
7. 古代犬、日本原産犬種の犬種名及び特徴と性格（3）
8. 猫の毛と体型（3）
9. 猫の飼育管理（2）
10. 短毛種の特徴と性格（2）
11. 長毛種の特徴と性格（2）

〔テキスト〕

世界の犬図鑑、世界の猫図鑑、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：ペットシッティング実習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い①（5）
2. 給餌、給水と体重管理①（5）
3. 適切温度及び湿度の管理①（5）
4. 動物の健康管理①（6）
5. 飼養施設の清掃と消毒①（7）
6. 廃棄物処理及び衛生管理①（7）
7. 動物愛護論①（5）
8. 緊急時の対応①（5）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。



科目名：ペットシッティング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い②（4）
2. 給餌、給水と体重管理②（4）
3. 適切温度及び湿度の管理②（4）
4. 動物の健康管理②（6）
5. 動物に異常があった場合の対応①（6）
6. 飼養施設の清掃と消毒②（6）
7. 廃棄物処理及び衛生管理②（6）
8. 動物愛護論②（4）
9. 緊急時の対応②（5）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。

科目名：ペットシッティング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理①（7）
2. ペットフードと体重管理①（6）
3. 適切温度及び湿度の管理③（5）
4. 消毒薬品等の管理①（6）
5. 消耗品管理①（5）
6. 廃棄物処理及び衛生管理③（6）
7. 動物愛護論③（5）
8. 緊急時の対応③（5）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。

科目名：ペットシッティング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシッティングを通じて身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるように消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるように、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理②（7）
2. ペットフードと体重管理②（6）
3. 適切温度及び湿度の管理④（5）
4. 消毒薬品等の管理②（6）
5. 消耗品管理②（5）
6. 廃棄物処理及び衛生管理④（6）
7. 動物愛護論④（5）
8. 緊急時の対応④（5）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。

科目名：動物関係法令

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

人と動物とのかかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学ぶ。日本においては動物に関する法律として約 20 種類ほどのものがあり身近な伴侶（愛玩）動物（飼養動物）として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものなどに大別できる。法律に則り、適切に動物を取り扱うことのできる人材を育成する。

〔講義・演習項目〕

1. 動物と法律の関係（7）
2. 動物の愛護及び管理に関する法律（7）
3. 動物の飼養及び保管に関する基準（7）
4. 動物愛護関係条例（7）
5. 家庭飼育動物に関わる関係法令（7）
6. 産業動物に関わる関係法令（5）
7. 身体障害者補助犬法（5）
8. ペットフード安全法（5）
9. 狂犬病予防法（5）
10. 野生動物に関わる関係法令（5）

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：家庭動物管理学

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。

〔講義・演習項目〕

1. 動物取扱業の社会的役割と責任（6）
2. 動物の愛護のための法律知識（6）
3. 動物販売に必要な基礎知識と技術（6）
4. 動物に関する基礎知識（6）
5. 動物の適正飼養・管理のための行動学（6）
6. 動物の展示方法と衛生管理（6）
7. 犬と猫の病気に関する知識（6）
8. ペットフード・犬猫関連用品の基礎知識（6）
9. 動物の適正な繁殖方法（6）
10. ペット関連法規（6）

〔テキスト〕

家庭動物管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

科目名：接客マナー

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2  
種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：講義  
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、話し方、態度・振舞いなど接客技能を養う。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対処ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. サービススタッフの資質 (6)
2. 従業要件について (5)
3. サービス知識について (5)
4. 従業知識について (5)
5. 社会常識とは (5)
6. 対人技能の人間関係とは (5)
7. 対人技能の接客知識について (6)
8. 対人技能の話し方・服装について (6)
9. 実務技能 (8)
10. 過去問題演習 (9)

〔テキスト〕

サービス接客検定公式テキスト・サービス接客検定問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、出席等を総合して判断する。

<p>科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員 訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、 ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れるよう実践する。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常での犬の接し方（7）</li> <li>2. おもちゃの種類（6）</li> <li>3. モチベーターについて（6）</li> <li>4. リードの種類（6）</li> <li>5. トレーニングの道具の種類（7）</li> <li>6. クレートからの出し方（6）</li> <li>7. コマンドの種類（声符、視符）（7）</li> <li>8. 停座訓練（9）</li> <li>9. 伏臥訓練（9）</li> <li>10. 招呼訓練（9）</li> <li>11. 居座、立止訓練（9）</li> <li>12. 脚側行進訓練（9）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員 訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、 ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側行進」などの「オビディエンス」技術を身につけ実践を行う。また、実践する際に使用する用具についても適切な使用方法やタイミングであるか実践の中で学ぶ。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常での犬の接し方（8）</li> <li>2. おもちゃでの遊び方（8）</li> <li>3. アイコンタクトの方法（8）</li> <li>4. リードの持ち方、扱い方（8）</li> <li>5. コマンドの出し方（声符、視符）（8）</li> <li>6. 停座訓練（10）</li> <li>7. 伏臥訓練（10）</li> <li>8. 招呼訓練（10）</li> <li>9. 居座、立止訓練（10）</li> <li>10. 脚側行進訓練（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>



科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習

担当教員：本学教員および実務経験のある教員

訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、  
ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える

〔講義主要目標及び講義概要〕

ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践で行う。

〔講義・演習項目〕

1. アジリティ競技について (8)
2. ハンドラーの動き (スイッチについて) (10)
3. ジャンプ障害 (ハードル) (8)
4. ジャンプ障害 (ロングジャンプ) (8)
5. ジャンプ障害 (タイヤ) (8)
6. ジャンプ障害 (レンガ (ウォール)) (8)
7. タッチ障害 (Aフレーム) (8)
8. タッチ障害 (ドッグウォーク) (8)
9. タッチ障害 (シーソー) (8)
10. その他 (スラローム) (8)
11. その他 (トンネル (チューブ、ソフト)) (8)

〔テキスト〕

犬のしつけ学 (基礎と応用)、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。

<p>科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：実習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員 訓練士、ドッグトレーナー等で経験のある者が、 ドッグトレーナー等に必要な知識と技術を教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 停座訓練（2）</li> <li>2. 伏臥訓練（2）</li> <li>3. 招呼訓練（2）</li> <li>4. 居座、立止訓練（3）</li> <li>5. 脚側行進訓練（3）</li> <li>6. ジャンプ障害（ハードル）（2）</li> <li>7. ジャンプ障害（ロングジャンプ）（2）</li> <li>8. ジャンプ障害（タイヤ）（2）</li> <li>9. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））（2）</li> <li>10. タッチ障害（Aフレーム）（2）</li> <li>11. タッチ障害（ドッグウォーク）（2）</li> <li>12. タッチ障害（シーソー）（2）</li> <li>13. その他（スラローム）（2）</li> <li>14. その他（トンネル（チューブ、ソフト））（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、期末試験、実習レポート、出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅰ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット産業、特にペットショップに従事する人材として、ペットの適正飼養の確保と推進に貢献するとともに顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。</p> <p>飼い主がペットと長く幸せに暮らすために、ペットにとって必要な生活環境を飼い主にとって不都合でない形で提供する必要がある。この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットの選び方からお手入れ方法、しつけや健康管理、獣医療等の知識や技術を学ぶ。</p> <p>また、ペット用品の製作を立案し、コストを意識した仕入れや製作を行うことで知識を生かした技術を身に付ける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペットの選択、入手手段と流通経路（4）</li> <li>2. 動物取扱業と生体の展示方法（4）</li> <li>3. 遺伝学の基礎知識と血統書（4）</li> <li>4. 獣医療とペット保険（4）</li> <li>5. ボディケアとトリミング（6）</li> <li>6. 子犬の教育・しつけの基礎知識（6）</li> <li>7. 子犬の問題行動と対処方法（6）</li> <li>8. 子犬の社会化プログラム（6）</li> <li>9. ペットグッズ製作（10）</li> <li>10. ペットフード製作（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、パピークラス&amp;こねこ塾スタート BOOK、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅱ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット産業、特にペットショップ従事者として、ペットフードに関わる知識やペット共生について正しい知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。</p> <p>この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、栄養学を中心にペットが健康な生活を送るために欠かせないペットフードの基本的な知識やペットとの共生について学ぶ。</p> <p>また、ペット用品の製作やイベント企画・運営などを学生主体で立案・実行し、コストを意識した仕入れや製作、運営まで行うことで知識を生かした技術を身に付ける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬・猫の基礎栄養学（2）</li> <li>2. 犬・猫において注意すべき食材（2）</li> <li>3. ペットフードの歴史と種類、材料（2）</li> <li>4. ペットフード関係法令（2）</li> <li>5. ペットフードの製造工程（2）</li> <li>6. 手作り食（6）</li> <li>7. ペット共生住宅の歴史と特徴（4）</li> <li>8. ペット用の環境づくり（4）</li> <li>9. 子猫の教育・しつけの基礎知識（6）</li> <li>10. 子猫の問題行動と対処方法（6）</li> <li>11. 子猫の社会化プログラム（6）</li> <li>12. ペットグッズ製作（8）</li> <li>13. イベント（ドッグファッションショー）の企画運営（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、パピークラス&amp;こねこ塾スタート BOOK、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅲ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット産業は多岐にわたり人との生活に影響している。ペットに関わる様々な分野について知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。</p> <p>この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットとのコミュニケーションやより良いペットとの関わり方（旅行・撮影・イベントなど）について学ぶ。また、ペット関連法規をはじめ、ペットに関わる保険について学ぶ。</p> <p>なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、ペットショップスタッフに必要な知識および技術の向上を図る。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬と猫とのコミュニケーション（2）</li> <li>2. ドッグランについて（2）</li> <li>3. ペット・ツーリズムについて（2）</li> <li>4. ペット撮影のノウハウ（4）</li> <li>5. ペットイベントについて（4）</li> <li>6. 個体識別の意義と役割、種類と方法（2）</li> <li>7. 事故および災害対策（2）</li> <li>8. ペット関連法律知識（4）</li> <li>9. 損害保険の基礎知識（2）</li> <li>10. 保険募集の基本ルール（4）</li> <li>11. 保険募集の基本と心構え（4）</li> <li>12. 損害保険の周辺知識（4）</li> <li>13. 保険用語（4）</li> <li>14. ペットグッズ製作（10）</li> <li>15. ペットフード製作（10）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、損害保険募集人一般試験教育テキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ペットビジネス演習Ⅳ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：15 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>ペット共生には犬・猫の高齢化に伴う様々な知識や技術が必要とされる。ペット業界全体を理解し、接客場面において相談やアドバイスを行うとともに、ペットの適正な発育と健康維持・増進に寄与できる人材を育成する。</p> <p>この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、犬・猫の老化ポイント、食餌・排泄の介助、供養などを学習する。</p> <p>また、ペットが健康で安全な生活を送る上で必要なペットフードに関わる法律や製造・保管などについても学ぶ。</p> <p>なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、より高度なペットグッズ製作技術の習得と広告および映像作品の製作を行う。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペットの老化（1）</li> <li>2. 高齢ペットの病気と介護（1）</li> <li>3. ペットの葬儀（1）</li> <li>4. ペット業界の業種と職種（1）</li> <li>5. 犬・猫の体の構造と生理（1）</li> <li>6. 犬・猫の栄養に関する基礎知識（1）</li> <li>7. ペットフードについて（1）</li> <li>8. ペットフード関連法規（1）</li> <li>9. ペットフードの製造・保管（1）</li> <li>10. エキゾチックアニマル・鳥・観賞魚の基礎知識と食事（1）</li> <li>11. ペットグッズ製作（1）</li> <li>12. イベント（ドッグファッションショー）の企画運営（2）</li> <li>13. 映像作品製作（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>犬と猫との暮らしの教科書、ペットフード販売士認定講習会テキスト、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ホリスティックケアⅠ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1  種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習  担当教員：本学教員および実務経験のある教員  ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。</p> <p>ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ペットの癒しとして自然治癒力を高めるアロマセラピーやマッサージ、ホリスティック療法を通じて身体全体のケアを学ぶ。</p> <p>また、動物介在療法（AAT）や動物介在教育（AAE）、動物介在活動（AAA）について学び、動物介在活動についての知識と技術を身につけ、実践の場として特別介護施設等で動物介在活動を実施し、その効果を実感するとともに犬の扱い方や参加者とのコミュニケーションスキルを身に付ける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホリスティックケアとは（2）</li> <li>2. アロマセラピー利用法（2）</li> <li>3. 精油の基礎知識（2）</li> <li>4. ホリスティックマッサージ（4）</li> <li>5. 経絡とツボ（2）</li> <li>6. マッサージの基本テクニック（4）</li> <li>7. 動物介在療法の歴史（2）</li> <li>8. 動物介在活動の流れ（2）</li> <li>9. 動物介在活動における会話（2）</li> <li>10. 犬を用いることによる利点と犬の問題行動（2）</li> <li>11. 動物介在活動体験（4）</li> <li>12. 体験からの問題点分析と改善（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級テキスト&amp;問題集、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ホリスティックケアⅡ</p> <p>開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。</p> <p>ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピー、手作り食、マッサージを総合的に学習する。アロマセラピー検定2級の出題範囲を学ぶとともに、手作り食では心と身体のバランスを保つことを第一に考え、合成添加物を使用することなく、ペットが安心して食べることができるように調理、食餌を実践する。</p> <p>また、動物介在活動を継続して行い、様々な訪問先の参加者に適した接し方など活動における留意点について学習し、実践できる能力を身につける。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーの歴史（2）</li> <li>2. アロマセラピーと地球環境（2）</li> <li>3. 市販のフードと手作りごはん（2）</li> <li>4. 基礎栄養学とカロリー計算（2）</li> <li>5. 調理実習（4）</li> <li>6. 身体の各部位ごとのマッサージ技法（2）</li> <li>7. 身体の機能低下および異常予防のためのマッサージ（2）</li> <li>8. 訪問施設ごとの動物介在活動のポイント（2）</li> <li>9. 犬以外のセラピー動物の特性と問題点（2）</li> <li>10. 動物介在活動体験（6）</li> <li>11. 体験からの問題点分析と改善（4）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>



<p>科目名：ホリスティックケアⅢ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。</p> <p>ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによってコミュニケーションスキルを高め合い、個々の思考能力を高める。</p> <p>また、主体的に動物介在活動を行うためにプログラムの立案を行い、参加者に適した接し方や活動における留意点についても思案し、安全かつ適正なセラピー活動を実践する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーのメカニズム (2)</li> <li>2. 精油の応用知識 (2)</li> <li>3. アロマセラピーと健康 (2)</li> <li>4. ツボ押し療法 (2)</li> <li>5. 肉球マッサージ (4)</li> <li>6. 歯ブラシマッサージ (4)</li> <li>7. 調理実習 (4)</li> <li>8. 動物介在活動プログラムの立案 (4)</li> <li>9. 活動施設の把握 (2)</li> <li>10. セラピー犬の技術 (2)</li> <li>11. 動物介在療法 (AAT・AAE・AAA) の将来 (2)</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>

<p>科目名：ホリスティックケアⅣ</p> <p>開講年次：2年 授業時数：15 単位数：1</p> <p>種類：専門科目 分類：選択必修 授業方法：演習</p> <p>担当教員：本学教員および実務経験のある教員</p> <p>ペット関連企業で実務経験がある者が、その経験を生かし基礎から教える</p>
<p>〔講義主要目標及び講義概要〕</p> <p>飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスをを行う手法の修得と動物介在活動おける社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。</p> <p>ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマセラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。</p> <p>また、社会貢献活動としての動物介在活動を実践する。</p>
<p>〔講義・演習項目〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーに関する法律（1）</li> <li>2. アロマセラピー総合学習（2）</li> <li>3. 犬猫のストレス（1）</li> <li>4. リンパマッサージ（2）</li> <li>5. 効果的なマッサージの組み合わせ（2）</li> <li>6. 調理実習（2）</li> <li>7. 動物介在活動体験（3）</li> <li>8. 体験からの問題点分析と改善（2）</li> </ol>
<p>〔テキスト〕</p> <p>よくわかる！アニマルセラピー、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級、アロマセラピー検定1級・2級問題集、独自に作成したプリント教材</p>
<p>〔成績評価〕</p> <p>授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、期末試験や出席等を総合して判断する。</p>